

【社会】 <中学校 第2学年>

1 結果のポイント

- 「地理的分野」について、日本の国土の様子などについての理解や考える力をみる問題、統計資料等からデータを正しく読み取ったり、それらを基に適切に考えたりする力をみる問題では、正答率が80%を上回っているものが複数ある。
- 他方、世界地図を基に緯度と気候をとらえる力をみる問題や、課題に対する考えを適切に表現する力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものがある。
- 「歴史的分野」について、現代との比較の視点から江戸時代の人々の生活の理解をみる問題や近代文化の様子とその代表的な作品等との関連をみる問題の正答率は75%を上回っている。また、江戸時代の米作りの発達を農具の改良等から考え表現する力をみる問題や日米修好通商条約の内容の理解をみる問題の正答率は65%程度である。
- 他方、江戸時代の文化の特色の理解をみる問題や、大日本帝国憲法が制定された経緯やその背景についての理解をみる問題、近代産業の発達と社会や人々の生活の変化について考える力をみる問題では、正答率が50%を下回っているものがある。

2 結果の分析

(1)「知識・理解」の力をみる問題の例

<問題> ③の3 ④の3

③3 3グループは、「江戸時代と現代の生活の違い」をテーマとして調べるために、同じような役割を果たすものを組み合わせてみました。次の中で比較する際の組み合わせとして適切でないものを、下のア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 江戸時代の「年貢」と現代の「税金」
- イ 江戸時代の「寺子屋」と現代の「学校」
- ウ 江戸時代の「宿場」と現代の「市役所」
- エ 江戸時代の「飛脚」と現代の「郵便」

④3 年表中の(C)について、正さんは次のように発表しました。正さんの発表した次の文の、(C)にあてはまることばを書きなさい。

.....
(C)は、ドイツ(プロイセン)などの制度を参考にして、1889年に天皇が国民にあたえる形で發布されました。これによって、日本は当時のアジアで最初の近代的な立憲制国家となりました。.....

<結果> ③の3 正答率75.0%(正答…ウ)
④の3 正答率42.9%(正答…大日本帝国憲法)

<分析>

③の3は、「江戸時代の人々の生活について、現在との結び付きや、比較という視点からその様子を理解しているか」をみる問題である。年貢、寺子屋など、基本的な用語は、よく理解できている。今後も、このように現代の生活と比較したり、関連させたりしながらその意味を正しく理解できるような指導を充実させていきたい。

また、地理的分野、歴史的分野とも、その他の「知識・理解」の力をみる問題の正答率から、基本的な事項の知識・理解については十分に身に付いていると考えられる。

④の3は、「大日本帝国憲法が制定されたことやその経緯を理解しているか」をみる問題である。これは、③の3と同じように、「知識・理解」の力をみる問題であるが、昨年度と同様、正答率は45%程度である。誤答では、その多くが「伊藤博文」と答えている。立憲政治に向かう時代背景の中で、伊藤博文が中心となって大日本帝国憲法が草案されていったことは理解できているが、問題文が何を問うているのかを生徒が十分に把握できていないと考えられる。この問題と同様に、問題文の読解が十分でないことによって、誤答となった問題が他にもみられたことから、問題文を確実に読み取り、何が問われているかを正しくとらえることができるよう指導する必要がある。

(2)「資料活用の技能・表現」の力をみる問題の例

<問題> ②の5 ③の2

25 資料Ⅴは、「D国の総輸出額に占める各輸出品目の割合の変化」を示したグラフです。このグラフから読み取ることができることとして、適切でないものを次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。
[資料Ⅴおよび選択肢については略]

32 2グループは、江戸時代は農業が発達し、米の生産量が大きく増えた時代であったと考えました。資料Ⅱと資料Ⅲから、その理由を考え、「農具」「新田」の二つのことばを用いて、簡潔に書きなさい。[資料は略]

<結果> 2の5 正答率63.9% (正答…ア) 3の2 正答率67.9% (正答…略)
<分析>

2の5は、「資料から、D国の輸出品の割合の変化を手がかりとして、輸出品から見たD国の特色を読み取ることができるか」をみる問題である。誤答の分析から、折れ線グラフに示された個々のデータの読み取りはできているが、縦軸の総輸出額に占める割合や横軸の年代とのかかわり、それぞれの折れ線から読み取れる事実を関連させて読み取る力が十分に身に付いていないと考えられる。資料中のデータを、定点ではなく量的な変化や時間経過の中で変化の様子をとらえるなど、資料の多様な読み取り方の指導をさらに充実していく必要がある。

3の2は、「江戸時代の諸産業の発達について、米作りの発達を農具の改良と新田の開発という視点で資料から読み取り考えることができるか」をみる問題である。正答率は70%程度である。誤答の分析から、絵資料から新しい農具が開発されたことや、グラフから年々耕地面積が増加しているという事実は、正しく読み取ることができていると考えられる。しかし、米の生産量の増加という視点と関連させて、「新田の面積の増加」等の事実を読み取ることができていないと考えられる。資料から、事実を読み取り、そこから何がいえるのか、どんなことが考えられるのかなどを求めていく指導が必要である。

(3)「思考・判断」の力をみる問題の例

<問題> 1の2 2の4

12 文中の下線①について、よしこさんは地震がもたらす被害について考えました。よしこさんが考えたア～エの被害の中から最も適切なもの一つを選び、その符号を書きなさい。
ア 火山灰や溶岩などによって、周辺の家屋や農地などに被害を与える。
イ 干ばつを引き起こし、農作物に被害をもたらすことがある。
ウ 川をはらんさせ、洪水を引き起こし、周辺の地域に被害を与える。
エ 山くずれ、地割れだけでなく、津波を引き起こすことがある。

24 資料ⅢはB国に進出する日本企業数についてあらわしたものです。この資料から、B国に近年多くの日本の企業が進出していることが分かりますが、その理由を資料Ⅳから考え、簡潔に説明しなさい。[資料は略]

<結果> 1の2 正答率87.7% (正答…エ) 2の4 正答率38.3% (正答…略)
<分析>

1の2は、「日本は自然災害(特に地震)が発生しやすい環境にあることと、その地震による被害について考えることができるか」をみる問題である。この問題は、地震という災害とその被害の様子を結び付けて考えることができるかを問うものであるが、正答率は非常に高い。わが国の国土に見られる特色が十分に把握され、その特色などを根拠に考える力は身に付いていると考えられる。

新聞などでもこうした問題については、身近なこととして提示されており、生徒が普段から関心を高めていると考えられる。身近な事象を通して考えるようにする指導は今後も心がけたい。

2の4は、「日本の企業がB国に進出する理由を、B国の労働者の賃金の低さに着目し適切に考えることができるか」をみる問題であるが、正答率は非常に低い。誤答では、無解答が25%程度あり、昨年度の「思考・判断」の力をみる記述式問題における無解答率を上回った。資料を基に調べ、課題について考え、自分の考えを表現する力という点では高まっていない。今後、このことに対する、指導の成果が十分に表れるよう改善に努める必要がある。正答率が低かった原因としては、「この問題では、何が問われているのか」を十分に読解できなかった生徒が多数いるものと考えられる。また、グラフのタイトル「日本の企業の平均賃金を100としたときのB国の平均賃金」の意味がつかめなかった生徒も多数いるものと考えられる。文章を十分に読み解く力を育てるようにす

るとともに、文章資料や様々な統計資料を用いて指導し、それらの資料の読み取り方を系統的に学ばせていくことが必要である。また、課題に対して調べ考えたことをまとめ、自分の言葉で表現する力の育成を一層充実させることが必要である。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

知識・技能を実際に活用することや、活用する力を基礎として、実際に課題を追究する活動を行い、自ら学び自ら考える力を高める必要がある。その際、以下の点に留意する。

- ・基本的な事項・ことがらを厳選して指導内容を構成することを大切にし、細かな事象を網羅的に羅列した知識の伝達に偏った指導計画になっていないか見直しを図る。
- ・小学校社会科の内容や各分野相互の関連を図り、第1～3学年までを見通して、系統的な指導に努め、社会科の目標が達成できるものとなるようにする。
- ・地理的分野、歴史的分野とも、資料の読み取り方等を系統的に指導するなど、社会科らしい学び方が身に付き、ものの見方や考え方が広まったり、深まったりするようにする。
- ・地理的分野では、地図や地球儀をより一層活用したり、統計グラフや文章資料など、多様な資料を活用したりするよう努める。また、世界の国々の学習で学ぶ「国」を地域や生徒の実態に応じて選択し、その事例についての知識・理解にとどまらせることなく、「その他の地域の特色や変化する地域の特色を自分でつかむ力」を身に付けさせ、学んだ内容が活用できるようにする。
- ・歴史的分野では、歴史の大きな流れを把握できるようにし、特定の時代や事例に偏ったり、時代で区分けした細切れの指導にならないようにしたりする。特に近現代の学習の充実に努めるとともに、代表的な事例を厳選し、第2学年終了までに、歴史学習を終えることができるようにする。

(2) 指導方法の工夫改善

「技能・表現」、「思考・判断」の力を十分に身に付けさせていくために、以下の点に留意する。

- ・問題解決的な学習の充実に努めることで、社会的事象に対する生徒の興味・関心を高め、自ら課題を見付け、自ら調べ考え、課題を解決する力を育てることができるよう見直しを図る。例えば、「①問題の発見 ②追究の方法の検討 ③調べ考察し、判断する ④過程や結果を多様な方法で表現する」といった学習過程を身に付けさせるようにする。
- ・多様な資料を積極的に活用するとともに、資料活用の技能を系統的に指導し、特に統計資料の読み取りなどの指導を意図的・計画的に行うことができるよう改善する。また、表現する力を付けるために、例えば、資料から読み取ったことを文章化するような指導を繰り返し行うよう改善する。
- ・地理的分野では、学習したことを実生活等で活用することを目指す指導を行う。例えば、新聞記事を活用し、その資料等から地域の様子などについて考えるような学習を行うようにする。
- ・歴史的分野では、年表を活用する指導の充実に努め、歴史的なことがらの確認だけでなく、前後の時代やできごととの関連から、その時代の様子を考えるなどの指導を行う。また、自らの考えをまとめ記述することについては、根拠となる資料をはっきりさせて考えをまとめたり、キーワードを用いてまとめたりするなどの指導を継続して行うとともに、多様な資料から多面的・多角的に考えたことを、新聞やレポートなどに長い文章でまとめるなど、自分の考えを適切に表現する力を身に付けるようにする。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成

- ・学習環境の工夫について、生徒が意欲的に課題解決に向かうために、必要な資料収集の方法等が具体的に示された掲示物の提示やプリント等の作成、資料の読み取りのポイントを具体的に示し、読み取りの視点を明確にできるような学習材を工夫する。また、生徒が確実に力を付けつつ、掲示物やプリント、資料の読み取りのポイント等を活用して主体的に学べる環境の整備を進める。
- ・学習集団の育成について、資料から分かることを交流する場面において、資料のどの事実を基に考えたのか根拠に着目したり、仲間の考えと似ているところや違うところを比べて、「聞く」ことを生徒の実態や発達段階に即して指導する。
- ・安心して学べる学習集団の育成のため、話し合いの視点を明確にし、誰もが自分の考えをもって話し合いに参加できることを大切にし、仲間とともに学び合うことで、自分の社会的なものの見方や考え方が広まったり、深まったりすることが実感できるようにする。